大学入試改革―プレテスト踏まえた授業案

国語

初見の文学で考査、達成度測る

渡邉　久暢

福井県立若狭高校教諭

■登場人物の関係性・心情理解へ

単元を構想する際には「生徒にどのような力を付け、その力をどう評価するか」を意識している。すなわち「目標と指導と評価の一体化」という考え方を重視してきた。単元を構想する際にはさまざまな選択肢が存在するが、一単元でその全てを包括することは不可能であり、実際にはさまざまな要素を捨てていくことになるからだ。

普段の単元構想において「どれを残し、どれを捨てるか」の判断基準を「今、目の前にいる生徒に対して、付けたい力」に置いているが、この紙面ではプレテストの結果を判断基準とした上で、文学を素材とした単元を構成するプロセスを具体的に述べる。

今回注目したのは、プレテスト第3問の小説を題材とした問題。入試センターによると「本文に即して登場人物の心情や言動の意味を捉えるなど、テクストを的確に読み取る力を問うとともに、文章に示された原作の粗筋と創作された内容との比較を通して、文学的な文章における構成や表現の工夫を読み取る力」を問うた。

問3では「テクスト全体における人物相互の関係の変容や心情の変化を適切に捉えたり、言動の意味を解釈したりすることができる」かが問われた。

三択問題であったにもかかわらず、正答率はそれほど高くなく、特に「あたし」の心情を問うⅡ群（解答番号6）では、成績上位者と下位者との正答率の差が20ポイント以上あった。「どのようにすれば初見の文学作品に描かれた登場人物の関係性や心情を理解することができるのか」を分かっていない生徒が多く存在することが考えられる。

■目標設定→教材決定→評価構想

この結果を踏まえ、本単元の目標を設定する。目標設定のポイントは「この単元を通して何ができるようになるのか」を明確にすることだ。

今回は「登場人物の関係の変容や心情の変化とその理由を、人物像、場の状況、情景描写などに即して読み深める」と設定する。もちろん、現行学習指導要領（国語総合）における「読むこと」領域の指導事項ウ「文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと」に基づいている。その上で、対象学年を、プレテストを2年後に受験する現高校1年生とし、主たる教材を芥川龍之介の『羅生門』とした。

教材選定の理由は、どの教科書にも載っているものであると同時に「下人」「老婆」「老婆に髪を抜かれた女」の関係性や心情を捉えるための言語活動を通して、目標の達成が期待できる題材だからだ。

単元の目標と、主たる教材が決定したならば、次は評価の構想だ。私の所属する若狭高校国語科では、定期考査の問題は「授業で扱わなかった素材」に基づき作成する。つまり『羅生門』を用いて授業を展開したとしても、『羅生門』を素材とした考査問題は作らない、ということだ。「既存の知識を発揮したり授業を通じて身に付けた思考力等を発揮したりして、設定した目標を超えることができるかどうか」というパフォーマンスを評価するための工夫である。

考査問題は、単元開始前にあらかじめ構想する。2012年に実践した『羅生門』を主教材とした単元では、芥川作の『偸盗』の一部を素材とした考査問題を想定したが、今回設定した目標の達成度合いを評価するには『偸盗』を用いることは困難だと考え、同じ芥川作『沼地』を素材として問題を作成する。このように、目標に応じて考査問題の素材を変えることで、「目標と指導と評価の一体化」を図っている。

この考査問題では、先述の単元目標を踏まえ、評価の規準をA「情景描写の効果を理解している」、B「登場人物の設定を理解している」、C「登場人物の関係や心情の変化とその理由を理解している」の三つに設定した。その上で、問一で情景描写の効果、問二で登場人物の設定、問三・問四で登場人物の心情を問うている。

こうして単元開始までに目標を絞り込み、評価の構想を持つ。急いで断っておくが、プレテストの形式をまねて作問するわけではない。共通テストのような大規模で結果の問われるハイステイクスなテストは、授業の総括的評価として行う考査とは大きく性質が異なる。安易にまねることは避けたい。

もちろん「単元目標」と、初見の問題を用いて評価規準の達成度を確認する考査を行うという「評価構想」を生徒と共有することが前提だ。このようなプロセスを経て、次に指導の構想へと移る。

■文脈に応じ、読解方略選ぶ力を

ここで注意してほしいことがある。評論や小説の読解指導において、単元冒頭から「読みのテクニック」を教えることは避けるべきである。

「より良く小説を読みたい」という意識が高まらないままでは、ただ単にその「テクニック」（と呼ばれるもの）を生徒に伝授したところで、なかなか読む力は育まれない。「今まで通りの読み方ではどうもうまくいかない、どういうことに気を付けていけばよいのか」という読みへの意識の高まりがあってこそ、読みの方略が一人一人の生徒の中に培われていく。まずは自分の「読み方」を自覚させた上で、個々の生徒が自分なりに設定した課題や観点に基づいて読みを実践させることが重要である。

さらに重要な点がもう一つある。指導者が生徒に対して読解方略を提示したり、個々の読解方略を個別的に使う練習をしたりするだけでは「良い読み手」になることはできない。

大事なのは生徒に対して「どのような場合に、どの方略を使うべきかを判断して用いる能力」（メタ認知）を育てられるように指導を仕組むことだ。『羅生門』を読む際に有効な方略が、そのまま安部公房の『棒』を読む際にも有効だといえないことは自明であろう。

生徒自身が「文脈に応じて使うべき方略を判断して用いる能力」を育むことが、読む力を培う上で重要になる。それ故、教師が特定の方略の用い方をパターン化して教え込んだり、文脈を無視してドリルのように方略の使い方を反復練習したりしても効果は薄い。どういう文脈であれば、どの方略を使うべきかを判断して自覚的に選択することができるような学習活動を組織する必要がある。

特に有効となるのが、自己評価としての「振り返り」を組織化することだ。テクストの解釈を交流するだけでなく、自身の方略使用の在り方を言語化し、他者と交流した上で、その生徒なりの読解方略を編み出すことまで促せるように活動を仕組むことが望ましい。

新共通テストに向けて「AL型授業」の重要性を唱える方もいるが、大事なのは「型」ではない。「何をどのように学び、何ができるようになるか、その成果をどう評価するか」という「目標と指導と評価の一体化」である。

定期考査などの詳細はwww.mitene.or.jp/「kkanabe/をご覧ください。

プレテスト問題（一部掲載）

第3問　次の文章は、複数の作家による「捨てる」という題の作品集に収録されている光原百合の小説「ツバメたち」の全文である。この文章を読んで、後の問い（問1～5）に答えよ。なお、本文の上の数字は行数を示す。

（一羽のツバメが渡りの旅の途中で立ち寄った町で、「幸福な王子」と呼ばれる像と仲良くなった。王子は町の貧しい人々の暮らしぶりをツバメから聞いて心を痛め、自分の体から宝石や金箔を外して配るよう頼む。冬が近づいても王子の願いを果たすためにその町にとどまっていたツバメは、ついに凍え死んでしまった。それを知った王子の心臓は張り裂けた。金箔をはがされてみすぼらしい姿になった王子の像は溶かされてしまうが、二つに割れた心臓だけはどうしても溶けなかった。ツバメの死骸と王子の心臓は、ともにゴミ捨て場に捨てられた。その夜、「あの町からもっとも尊いものを二つ持ってきなさい」と神に命じられた天使が降りてきて、ツバメと王子の心臓を抱き、天国へと持ち帰ったのだった。

オスカー・ワイルド作「幸福な王子」より）

A 遅れてその町にやってきた若者は、なんとも風変わりだった。

つやのある黒い羽に敏捷な身のこなし、実に見た目のいい若者だったから、南の国にわたる前、最後の骨休めをしながら翼の力をたくわえているあたしたちの群れに、問題なく受け入れられた。あたしの友だちの中にも彼に興味を示すものは何羽もいた。でも、彼がいつも夢のようなことばかり語るものだから——今まで見てきた北の土地について、これから飛んでいく南の国について、遠くを見るようなまなざしで語るばかりだったから、みんなそのうち興味をなくしてしまった。来年、一緒に巣をこしらえて子どもを育てる連れ合いには、そこらを飛んでいる虫を素早く見つけてたくさんつかまえてくれる若者がふさわしい。遠くを見るまなざしなど必要ない。

とはいえ嫌われるほどのことではないし、厳しい渡りの旅をともにする仲間は多いに越したことはないので、彼はあたしたちとそのまま一緒に過ごしていた。

そんな彼が足繁く通っていたのが、丘の上に立つ像のところだった。早くに死んでしまった身分の高い人間、「王子」と人間たちは呼んでいたが、その姿に似せて作った像だということだ。遠くからでもきらきら光っているのは、全身に金が貼ってあって、たいそう高価な宝石も使われているからだという。あたしたちには金も宝石も用はないが。

人間たちはこの像をひどく大切にしているようで、何かといえばそのまわりに集まって、列を作って歩くやら歌うやら踊るやら、(ア)ギョウギョウしく騒いでいた。

彼はその像の肩にとまって、あれこれとおしゃべりするのが好きなようだった。王子の像も嬉しそうに応じていた。

「一体何を、あんなに楽しそうに話しているの？」

彼にそう聞いてみたことがある。

「僕の見てきた北の土地や、まだ見ていないけれど話に聞く南の国のことをね。あの方はお気の毒に、人間として生きていらした間も、身分が高いせいでいつもお城の中で守られていて、そう簡単にはよその土地に行けなかったんだ。憧れていた遠い場所の話を聞けるのが、とても嬉しいと言ってくださってる」

「そりゃよかったわね」

あたしたちには興味のない遠い土地の話が、身分の高いお方とやらには嬉しいのだろう。誇らしげに話す彼の様子が腹立たしく、あたしはさっさと朝食の虫を捕まえに飛び立った。

やがて彼が、王子と話すだけでなく、そこから何かをくわえて飛び立って、町のあちこちに飛んでいく姿をよく見かけるようになった。南への旅立ちも近いというのに一体何をしているのか、あたしには不思議でならなかった。

風は日増しに冷たくなっていた。あたしたちの群れの長老が旅立ちの日を決めたが、それを聞いた彼は、自分は行かない、と答えたらしい。自分に構わず発ってくれと。

仲間たちは皆、彼のことは放っておけと言ったが、あたしは気になった。いよいよ明日は渡りに発つという日、あたしは彼をつかまえ、逃げられないよう足を踏んづけておいてから聞いた。ここで何をしているのか、なにをするつもりなのか。

彼はあたしの方は見ずに、丘の上の王子の像を遠く眺めながら答えた。

「僕はあの方を飾っている宝石を外して、それから体に貼ってある金箔をはがして、貧しい人たちに持って行っているんだ。あの方に頼まれたからだ。あの方は、この町の貧しい人たちが食べ物も薪も薬も買えずに苦しんでいることを、ひどく気にしておられる。こんな悲しいことを黙って見ていることはできない、けれどご自分は台座から降りられない。だから僕にお頼みになった。僕が宝石や金箔を届けたら、おなかをすかせた若者がパンを、凍える子どもが薪を、病気の年寄りが薬を買うことができるんだ」

あたしにはよくわからなかった。

「どうしてあなたが、それをするの？」

「誰かがしなければならないから」

「だけど、どうしてあなたが、その『誰か』なの？　なぜあなたがしなければならないの？　ここにいたのでは、長く生きられないわよ」

あたしは重ねて聞いた。彼は馬鹿にしたような目で、ちらっとあたしを見た。

「君なんかには、僕らのやっていることの尊さはBわからないさ」

腹が立ったあたしは「勝手にすれば」と言って、足をのけた。彼ははばたいて丘の上へと飛んで行った。あたしはそれをただ見送った。

長い長い渡りの旅を終え、あたしたちは南の海辺の町に着いた。あたしは数日の間、海を見下ろす木の枝にとまって、沖のほうを眺めていた。彼が遅れて飛んで来はしないかと思ったのだ。しかし彼が現れることはなく、やがて嵐がやって来て、数日の間海を閉ざした。

この嵐は冬の(イ)トウライを告げるもので、北の町はもう、あたしたちには生きていけない寒さになったはずだと、年かさのツバメたちが話していた。

彼もきっと、もう死んでしまっているだろう。

彼はなぜ、あの町に残ったのだろうか。貧しい人たちを救うため、自分ではそう思っていただろう。あたしなどにはそんな志はわからないのだと。でも本当のところは、大好きな王子の喜ぶ顔を見たかっただけではないか。

そうして王子はなぜ、彼に使いを頼んだのだろう。貧しい人たちを救うため、自分ではそう思っていただろう。でも……。

まあいい。どうせあたしにはCわからない、どうでもいいことだ。春になればあたしたちは、また北の土地に帰っていく。あたしはそこで、彼のような遠くを見るまなざしなど持たず、近くの虫を見つけてせっせとつかまえ、子どもたちを一緒に育ててくれる若者と(ウ)ショタイを持つことだろう。

それでも、もしまた渡りの前にあの町に寄って「幸福な王子」の像を見たら、聞いてしまうかもしれない。

あなたはただ、自分がまとっていた重いものを、捨てたかっただけではありませんか。そして、命を捨てても自分の傍にいたいと思う者がただひとり、いてくれればいいと思ったのではありませんか——と。

（光原百合他『捨てる』による。）

問3　傍線部B「わからないさ」及び傍線部C「わからない」について、「彼」と「あたし」はそれぞれどのような思いを抱いていたか。その説明として最も適当なものを、傍線部Bについては次の【Ⅰ群】の①～③のうちから、傍線部Cについては後の【Ⅱ群】の①～③のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 5 ・ 6 。

【Ⅰ群】　5

① 南の土地に渡って子孫を残すというツバメとしての生き方に固執し、生活の苦しさから救われようと「王子」の像にすがる町の人々の悲痛な思いを理解しない「あたし」の利己的な態度に、軽蔑の感情を隠しきれない。

② 町の貧しい人たちを救おうとする「王子」と、命をなげうってそれを手伝う自分を理解するどころか、その行動を自己陶酔だと厳しく批判する「あたし」に、これ以上踏み込まれたくないと嫌気がさしている。

③ 群れの足並みを乱させまいとどう喝する「あたし」が、暴力的な振る舞いに頼るばかりで、「王子」の行いをどれほど熱心に説明しても理解しようとする態度を見せないことに、裏切られた思いを抱き、失望している。

【Ⅱ群】　6

① 「王子」の像を金や宝石によって飾り、祭り上げる人間の態度は、ツバメである「あたし」にとっては理解できないものであり、そうした「王子」に生命をかけて尽くしている「彼」のこともまたいまだに理解しがたく感じている。

② 無謀な行動に突き進んでいこうとする「彼」を救い出す言葉を持たず、暴力的な振る舞いでかえって「彼」を突き放してしまったことを悔い、これから先の生活にもその後悔がついて回ることを恐れている。

③ 貧しい人たちを救うためというより、「王子」に尽くすためだけに「彼」は行動しているに過ぎないと思っているが、「彼」自身の拒絶によってふたりの関係に介入することもできず、割り切れない思いを抱えている。

第5回
夏の教育セミナー
新学習指導要領と大学入試改革
主催：日本教育新聞社／株式会社 ナガセ（東進ハイスクール・東進衛星予備校）

この夏8月に、全国12都市で開催！

5年目となる本年はより実践型へ！

昨年8月、全国12会場で「夏の教育セミナー」を開催。約5,000名の先生方にご来場いただきました。今年も大盛況が予想されます。ぜひご参加ください！

いよいよお申し込みスタート！
夏の教育セミナー　kyoiku-sakidori.com　夏の教育セミナー　検索
＊プログラム詳細は順次公開いたします。もうしばらくお待ちください。

全国12都市・会場にて、順次開催いたします。
お近くの会場へ、ぜひご参加ください。

開催地・日程

日程	都市	会場
8/1(水)	仙台	TKPガーデンシティ仙台
8/2(木)	大宮	パレスホテル大宮
8/3(金)	東京	ベルサール新宿グランド
8/4(土)	札幌	札幌コンベンションセンター
8/6(月)	福岡	ヒルトン福岡シーホーク
8/7(火)	広島	広島コンベンションホール
8/8(水)	横浜	横浜ロイヤルパークホテル
8/9(木)	大阪	コングレコンベンションセンター
8/10(金)	金沢	ANAクラウンプラザホテル金沢
8/17(金)	神戸	ホテルオークラ神戸
8/20(月)	千葉	三井ガーデンホテル千葉
8/21(火)	名古屋	名古屋観光ホテル